

岡安仁美名誉教授に捧ぐ

清水雅貴

本学名誉教授岡安仁美先生は、2021年12月2日逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を捧げます。

岡安先生は1928年6月12日に出生されました。1949年3月に私立第二早稲田高等学院文科を卒業され、同年4月に早稲田大学第一商学部に入學されました。そして、1951年3月同大学を卒業されました。同年4月に早稲田大学大学院商学研究科修士課程に進學され、1956年3月に修了されました。その後、1960年4月に明治大学大学院商学研究科博士課程に入學され、1966年3月に修了されました。1968年3月には論文「輸入と国際金融に関する一観点」で商学博士を明治大学より授与されました。

先生は、1960年4月より埼玉県立川越工業高等学校に教諭として着任され、そして、1963年4月より埼玉県立大宮商業高等学校に教諭として赴任されました。その後、1966年4月の和光大学開学とともに、経済学部（現、経済経営学部）経済学科に講師（1968年に助教授、1974年に教授）として就任されました。そして、1989年の経済学科・経営学科改組の際は経営学科に所属されました。本学では主に「金融論」「国際金融論」「プロゼミ」などをご担当されました。そして、1993年3月の和光大学ご退任までに学内委員として、教職課程委員をはじめ、経済学部商学コース主任、教務課程委員、進路指導委員などを歴任されました。さらに、1978年9月からは経済学科長、1984年10月には経済学部長に就任され、和光大学の教育活動にご尽力いただきました。

先生は国際金融論が専門で、日本金融学会、日本貿易学会、日本商業学会に所属されていました。そして、1969年に編著『貨幣金融論』（法学書院）を、1974年には単著『序説国際貿易と国際金融』（世界書院）を出版されました。また、和光大学経済学部が5年おきに出版した『アダム・スミスとその時代』（白桃書房1977年）、『マルサス・リカードとその時代』（白桃書房1981年）などにおいて研究成果を発表されました。『和光経済』においても貿易論・金融論・国際通貨論を中心にたくさんの論文を投稿いただきました。特に、1970年3月と1971年3月に発行の『和光経済』では、「金の役割に関する考察（その一）」（第3巻第2号）、「金の役割に関する考察（その二）」（第5巻第1号）という論文を発表され、1971年8月に発生した、いわゆる、ニクソン・ショック（金・ドル兌換停止）を予期したかのように、国際金融や金為替本位制の現状を明晰に論究されています。そして、その後の固定相場制から変動相場制へ移行するまでの経緯については、1983年に「国際通貨制度の回顧（1970～1975年）」（第15号第2巻）として考証されています。

先生は和光大学が開学する原動力となり、また、今日の経済経営学部につながる経済学部を発足させ、草創期から教育と研究をけん引されたメンバーの一人でした。1966年、開学を控えた2月の第1回経済学部教授会議事録を紐解くと、そこには岡安先生のお名前が出席者として記されており、当時、小田急線経堂駅前にあった和光大学設置準備事務局にて、開学1期生の入試、カリキュラム編成などについて議論されたことが記録されています。そして、先生には高校教諭のご経験から長い間、教職課程における教員養成にも並々ならぬご尽力を賜りました。私たちは先生が残された和光大学経済経営学部における偉業をいつも享受しながら、これからも本学部の教育と研究を発展させるための努力を続けてまいる所存です。

ここに、岡安先生のご生前の功績をたたえ、『和光経済』の本号を先生の追悼号として捧げることによって、経済経営学部教員・職員一同より感謝と哀悼の意を表します。